

2019年6月30日(日)

14:00～16:00 (13:30 開場)

※16:30～18:00 情報交換会

●場所 東京大学先端科学技術研究センター内

ENEOSホール

(東京都目黒区駒場4-6-1 3号館南棟1階)

●定員 100名 (先着順)

●参加費 無料 (要事前申込)

●情報保障あり(手話通訳・文字支援)

熊谷 肇一郎

長津 結一郎

● 障害者の芸術文化への鑑賞機会の参加を考えるためのフォーラム ●

アートにおける
境界を考える

～当事者研究を手がかりに～

長津結一郎

舞台の上の障害者 ～境界から生まれる表現と文化政策の現在～



日本文化政策学会理事、九州大学大学院芸術工学研究院助教、および芸術工学研究院附属ソーシャルアートラボ構成教員。専門はアーツ・マネジメント、文化政策学、芸術社会学。障害のある人の表現活動を主なフィールドとして、異なる立場や背景をもつ人々の協働と、そこにある芸術文化の役割について、研究／実践の双方からアプローチを試みる。単著に『舞台の上の障害者：境界から生まれる表現』（九州大学出版会、2018年）、共著に『障がいのある人の創作活動 実践の現場から』（あいり出版、2016年）、『ソーシャルアートラボ：地域と社会をひらく』（水曜社、2018年）などがある。

熊谷晋一郎



東京大学先端科学技術研究センター准教授、小児科医。日本発達神経科学学会理事。主な著作に、「リハビリの夜」（医学書院、2009年）、「発達障害当事者研究」（共著、医学書院、2008年）、「つながりの作法」（共著、NHK出版、2010年）、「痛みの哲学」（共著、青土社、2013年）、「みんなの当事者研究」（編著、金剛出版、2017年）、「当事者研究と専門知」（編著、金剛出版、2018年）など。

●道順



●お申し込み・お問い合わせ

メールまたはFAXでも承ります。

Email:

artniokerukyokaiwokangaeru@gmail.com

FAX: 03-5452-5123

件名を「アートにおける境界 フォーラム申し込み」とし、

①氏名 ②ご連絡先 ③ご所属 をお知らせ下さい。

お申し込みフォーム



●主催

東京大学先端科学技術研究センター 当事者研究Lab. には大きく分けて3つの役割があります。①当事者研究そのものの実践の場としての役割、②当事者研究の学術的検証の場としての役割、③当事者研究を研究する場としての役割と共に、当事者研究に関するさまざまな研究の場として発足しました。



●共催

シアター・アクセシビリティ・ネットワーク (TA-net) は、聴覚障害当事者が中心となって、2012年に設立しました。「みんなで一緒に舞台を楽しもう!」を合言葉に、障害があっても気軽に劇場に足を運び、観劇ができる社会作りを目指し、東京を拠点に全国で活動を展開しております。

